# 宮城・仙台城本丸跡

1　所在地　宮城県仙台市青葉区川内

2　調査期間　一九九七年（平9）七月～二〇〇〇年一二月

3　発掘機関　仙台市教育委員会

4　調査担当者　金森安孝・我妻　仁

5　遺跡の種類　城館跡

6　遺跡の年代　中世・近世

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

仙台城は、初代の仙台藩主伊達政宗が、慶長五年（一六〇〇）一二月から築城を開始し、慶長七年五月に一応の完成をみた城である。

（仙　台）

伊達氏入部以前に国分氏の「千代城」があったとされていたが、発掘調査でも門を伴う石敷きの虎口や竪堀、路面整備された通路跡を検出している。仙台城の城域は、政宗死後の寛永年間に造営された二の丸と山麓の三の丸、重臣武家屋敷などを含め、面積約一〇〇haに及ぶ広大な範囲を占める。本丸の規模は諸城郭の中でも最大級で、仙台市街地西部、標高一一五mほどの青葉山丘陵先端の平場に立地している。自然地形を巧みに利用し、広瀬川と竜ノ口峡谷の断崖に囲まれた山城で、尾根続きの西側には堀切や土塁を、緩斜面となる北側には約一七mの高石垣を築いて防御を固めている。

本丸跡では北面の石垣に一九六〇年代から変形が目立ちはじめ、仙台市は、青葉山公園整備計画の一環として一九九七年から石垣修復工事に着手している。仙台市教育委員会は、それに伴う発掘調査を実施し、現存石垣（Ⅲ期）背面から、伊達政宗による築城期石垣（Ⅰ期）と修復石垣（Ⅱ期）を発見し、本丸における三時期の石垣変遷と、石垣構築技術の変容を確認した。

木簡三点は、本丸北東部、Ⅰ期石垣を埋め込んだⅡ期石垣背面の盛土から出土した。Ⅱ期石垣は、『伊達治家記録』一～二四（仙台藩史料大成　宝文堂、一九七二～八二年）や、「江戸幕府老中奉書」（仙台市博物館蔵）などの史料や絵図、出土遺物などの検討から、元和二年（一六一六）の地震で崩壊したⅠ期石垣を修復した石垣とみている。これらの遺物は、慶長五年の仙台城築城から、元和二年の地震被災頃に使用され、Ⅱ期石垣構築時に石垣背面に埋没したものと考えられる。

また、石垣石材からは三〇〇〇点を超す刻印や墨書を発見してお

り、「寛文」銘の朱書石材や、「慶安五年八月十五日」（一六五二）銘の刻字石材など、多数の文字資料を検出している。土師質土器（かわらけ）は、一九〇〇点ほど出土し、うち七点に墨書が認められる。金属製品には、角石下部から出土した「敷金」二百数十点があるほか、石材を割る「鉄矢」や加工に用いたノミなど、石工の道具も出土しており、うち数点に刻印が認められる。

さらに、山上にもかかわらず、谷地形の影響で保存状態の良い木製品が多く出土し、そのうち二六点に墨書が残っているが、現在整理中のため今回は釈読できた三点を紹介する。木簡の他にも、梨地蒔絵椀や箸・折敷・下駄・桶板・柿材（こけら）（板葺の一種）など、本丸での暮らしぶりを知る貴重な資料が多い。黒漆塗りの板材一点には刻書「天下一之□」が認められる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　・「〈　□
　　二十文□
　　・「〈□慶長十二年　(103)×(13)×3　039

(2)　「玉将」　43×32×3　061

(3)　・「兵」
　　・「と」　33×11×2　061

(1)は、荷札木簡である。上端部は細く削られて整形され、肩部と頭部は面取りされている。切り込みを入れた部分の可能性もある。樹種はヒノキである。

(2)は、将棋の駒「玉将」である。表面の縁辺部の八カ所に墨線が描かれ、駒の進行方向を示している。裏面は何も記されていない。樹種はスギである。

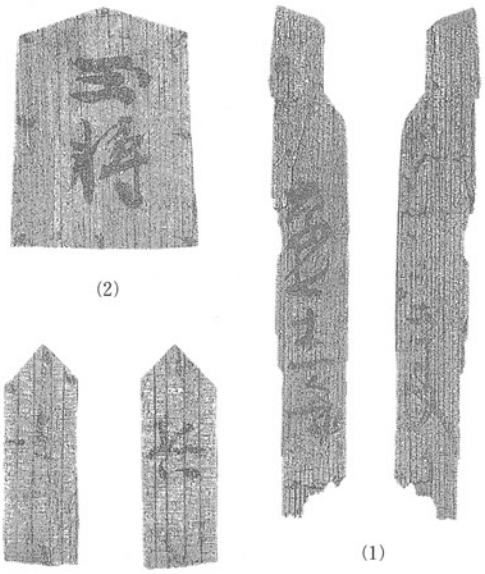
(3)は、将棋の駒「歩」である。表面の上端部一カ所に墨線が描かれ、駒の進行方向を示している。裏面は「成り金」を表す「と」が記され、縁辺部六カ所に墨線が描かれ、金将の進行方向を示している。樹種はスギである。

9　関係文献

仙台市教育委員会『仙台城本丸跡の発掘』改訂版（二〇〇〇年）
金森安孝「仙台城本丸跡の発掘調査」（『月刊考古学ジャーナル』四四二　一九九九年）
金森安孝・我妻　仁「仙台城本丸跡　築城期及び修復石垣の発見」（『月刊考古学ジャーナル』四五六　二〇〇〇年）
金森安孝「仙台城本丸跡石垣修復に伴う発掘調査」（『日本歴史』六二六　二〇〇〇年）

（金森安孝）

「慶安五年八月十五日」銘
刻字石材



(1)

(2)

(3)

# 木簡研究第一七号


巻頭言――書は言を尽くさず、言は意を尽くさず――　佐藤宗諄

一九九四年出土の木簡

概要　平城宮跡　平城京跡左京三条一坊十二坪　平城京跡　平城京跡左京七条一坊十六坪　東大寺　奈良女子大学構内遺跡　高安城関連遺跡　藤原宮跡　藤原京跡左京七条一坊東南坪　藤原京跡左京十一条三坊　長岡京跡(1)　長岡京跡(2)　長岡京跡(3)　平安京跡左京四条一坊一町　平安京跡左京八条三坊十四町　平安京跡右京八条二坊二町　慈照寺境内　客坊山遺跡群　大坂城跡　袴狭遺跡　見蔵岡遺跡　有年原・田中遺跡　梶子北遺跡　曲金北遺跡　伊興遺跡　錦糸町駅北口遺跡　宮町遺跡　前橋城遺跡　荒田目条里遺跡　矢玉遺跡　山王遺跡　大坪遺跡　中尊寺境内金剛院　花立Ⅱ遺跡　志羅山遺跡　福井城跡　大友西遺跡　石名田木舟遺跡(1)　石名田木舟遺跡(2)　北高木遺跡　水橋荒町遺跡　山木戸遺跡　上郷遺跡　陰田小犬田遺跡　米子城跡七遺跡　三田谷Ⅰ遺跡　吉川元春館跡　田村遺跡群　姉川城跡　中園遺跡Ⅲ区

一九七七年以前出土の木簡（一七）

平城京跡左京二条二坊六坪

刻歯簡牘初探――漢簡形態論のために――　籾山　明

新潟特別研究集会の記録

国史跡指定答申なった八幡林官衙遺跡…小林昌二、八幡林遺跡の時代的変遷…田中靖、古代越後平野の環境・交通・官衙…坂井秀弥、封緘木簡考…佐藤信、八幡林遺跡木簡と地方官衙論…平川南、討論のまとめ

書評　鬼頭清明著『古代木簡の基礎的研究』　今津勝紀

彙報


頒価　五五〇〇円　送料六〇〇円